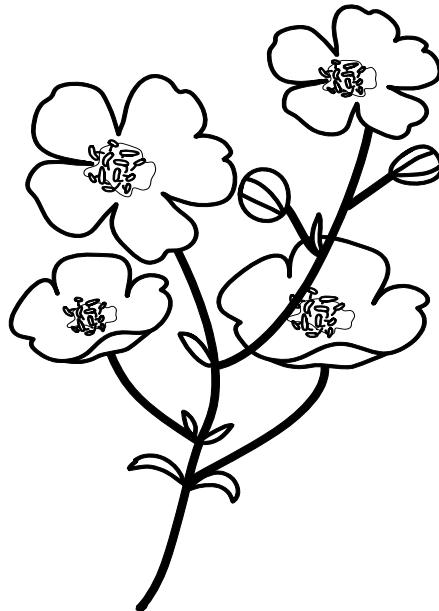




運営に関する計画

令和 3 年度 (最終評価)



大阪市立菅原小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○いじめ不登校対策委員会などを活用し教職員の情報交換を活発にしてきた結果、令和元年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合は 100%であり目標を達成した。今後も早期発見、早期対応に努めることが必要である。暴力行為を複数回行う加害児童数は見られなくなった。今後も警察やこども相談センター、子育て支援室等関係諸機関と連携し、児童の健全育成に向けた行動連携に努める必要がある。

○道徳心・社会性の育成の基本として「あいさつ」を掲げ、あいさつ強調週間やあいさつ当番に取り組んできた。また、きまりを守ることの良さや大切さを意識付けるため、きまりを守る強調週間にも新たに取り組んできた。自尊感情を高めるため、体験活動、「よいところ見つけ」や「すてきな自分カード」による自己分析などに積極的に取り組み、「進んであいさつをしている」「自分にはよいところがある」「学校のきまり・規則を守っていますか」の肯定的な回答の割合も向上してきている。

○地域に開かれた学校づくりに向け、情報発信に積極的に取り組んできた。ホームページの更新回数は年間 1000 回以上、閲覧数も 70,000 回を超えた。保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答えた保護者の割合は 95% と目標を上回った。今後さらに、内容の充実を図っていきたい。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○学力向上の基礎として読書習慣の定着を重視し、読書環境を整備し読書の質と量の向上を図っている。読書に親しむイベントも積極的に取り入れ、イベントごとの振り返りでは、「楽しかった」「またやりたい」という答えが大半である。しかし、「進んで読書をしている」児童の割合は、H29 年度 65%, H30 年度 68%, R1・2 年度 60% と、成果を見るにはいたっていない。実効性のある方策を探る必要がある。

教員の指導力向上のための研究授業や校内研修、メンター研修、ＩＣＴ機器の活用等を進めてきた。また、学力向上推進事業の取組を重ねるにつれ、教員の学習指導に対する意識や意欲が大いに高まった。

基礎基本を重視した個別の学習支援に継続して取り組んできた。「菅原のびっこタイム」と銘打った、週 1 回の反復学習の時間も定着している。

研究の視点に「伝え合う活動の充実」を取り入れたことにより、「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して肯定的に回答する児童の割合も、H29 年度 60.8%, H30 年度 63.6% から、R1 年度 70.5% と、着実な伸びが見られる。(R2 年度はコロナ禍により交流の機会が減り、61.6% にとどまった。)

全国学力・学習状況調査における無解答率も年々減少し、粘り強く課題に取り組もうとする態度が育っている。この姿勢は、大阪市小学校学力経年調査の結果にも表れており、特筆すべき成果と言える。ただし、正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を 1 ポイント以上減らす、2 割以上上回る児童の割合を 1 ポイント以上増やすという目標を、達成できない学年もあった。引き続き「読むこと」「書くこと」に重点を置いた、国語科における基礎学力の定着と活用力の育成を図る必要がある。

○体力向上の取組として、体育科の授業の準備運動に、柔軟性を高める体ほぐしの運動を徹底した。また、なわとび週間やかけ足週間、各学級でのみんな遊びなど、運動の生活化を図ってきた。楽しみながら柔軟性を高め体幹を鍛える、学校オリジナルの「すがはら体操」を実施するなど、全校挙げた取組も進めてきた。シャトルラン・長座体前屈ともに記録が伸びつつある。

健康に関する意識を向上させるために「手洗い・うがい」の強調週間や清潔調べを行っている。コロナの影響もあり、児童の意識は確実に高まっている。ハンカチ・ティッシュを携帯していない児童は固定化の傾向にあるため、家庭との連携強化も課題である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。 $\Rightarrow 76.9\%$

○平成29年度～令和3年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。 $\Rightarrow 100\%$

○令和3年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を平成28年度の全国学力・学習状況調査(69.2%)より向上させる。 $\Rightarrow 78.2\%$

○令和3年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を90%以上にする。 $\Rightarrow 97.3\%$

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和3年度の全国学力・学習状況調査における無解答率を平成28年度(6.65%)より3ポイント以上減少させる。 $\Rightarrow 1.35\% \quad 5.3\text{ ポイント減少}$

○令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成28年度(96.9)より向上させる。 $\Rightarrow 97.9$

○特に課題であるシャトルランと長座体前屈の記録を、令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平成28年度より5ポイント向上させる。 \Rightarrow シャトルラン男子8.6ポイント、女子6ポイント、長座体前屈男子5ポイント、女子長座7.9ポイント向上

○令和3年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を平成28年度(85%)より向上させる。 $\Rightarrow 92.9\%$

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 校内アンケートにおけるあいさつに関する項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。
- 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 90%以上で維持する。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題であったシャトルランと長座体前屈の平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 校内アンケートにおける「進んで読書をしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における「国語科の授業内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、83%以上にする。
- 校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上で維持する。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

学校で認知したいじめについて解消した割合は 100% であった。今後もいじめについての情報共有を図り、組織的に対応していく。深刻な暴力行為を複数回行う加害児童は報告されていないが、気持ちが安定しない時やトラブルになった時に暴力行為を行う児童が若干数いるため継続指導を行っている。新たに不登校になった児童はいるものの、保護者や関係諸機関と連携し、粘り強い対応を続けることにより、別室登校など登校に向けた取組を進めている。

学期に 1 回「右側を歩こう強調週間」を設けるなど、きまりを守ろうとする意識を高める取組を行ってきたが、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目に肯定的に答えた児童の割合は 76.9% にとどまった。運営委員会の児童を中心に「あいさつ強調週間」を実施した。気持ちの良いあいさつについての動画を作成したりポスターを掲示したりするなど、積極的にあいさつを行うように取り組んだりしてきた。学校生活アンケートのあいさつに関する項目では 86.5% の児童が肯定的に答え、目標値に達することができた。また、学期に 1 回「よいところ見つけ」を実施した。「自分にはいいところがある」に肯定的に答えた児童の割合は 78.2% にとどまったものの、学期ごとに数値は向上した。コロナ禍のため異学年交流や体験的な活動については制限を加えざるを得ない場面も多かったが、集合せずにできる活動を模索した。

年度末の保護者アンケートにおいて、「学校は情報公開をよく行っている」と答えた保護者の割合は 97.3% で、目標を達成した。次年度以降も学校情報を積極的に発信し、開かれた学校づくりを進めていく。

【豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学力向上推進事業を受けて校内研修や研究活動を充実させ、また家庭学習・自主学習の習慣化と内容の充実を図ってきたが、施策 5 の全市共通目標については、いずれも達成に至らなかった。読書活動については、菅原読書チャレンジや 3 分間読書、読書ピングやブックトークといった多彩な取組を展開し、校内アンケートにおける「進んで読書をしている」の項目について肯定的に回答する児童の割合は、69.3% と大きな伸びを見せた。「図書館だより」の発行を通じて家庭にも読書について発信した。今後も読書意欲を高め、読書習慣がいっそう定着するよう継続指導していく。コロナ禍においても子どもの学びを保障できるよう、オンライン授業などの I C T 活用を充実させた。

体育の授業において、準備体操や整理体操、体ほぐしの運動として体幹を鍛える「すがはら体操」を実施し、児童の柔軟性が高まるように取り組んできた結果、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、大きな成果を見ることができた。長座体前屈では男子が 2.6 ポイント、女子が 3.1 ポイント向上した。20m シャトルランでは男子が 7.6 ポイント、女子が 3.6 ポイント向上した。体力合計点を見ても、男子は大阪市を上回り、女子は全国・大阪市ともに上回るという好結果であった、次年度以降も、体力向上を目指し、各学年の実態にあわせてスポーツタイムの内容を工夫していく。

日々の「手洗いタイム」や、学期ごとの「手洗い・うがい強調週間」の結果、児童の手洗いへの意識が向上し、児童アンケートの手洗いうがいの項目において肯定的に回答した児童は 92.9% となり、目標を大きく上回った。今後も児童の健康に対する意識を高める取組を継続する。

大阪市立菅原小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策 1 安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>いじめの早期発見・解消のため、いじめアンケートと教育相談を実施する。また、いじめや暴力行為、不登校に関する組織的対応を協議するための対策委員会と、生活指導上の諸課題について全教職員が共通理解するための連絡会を定期的に行う。</p> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを年 3 回実施し、事後の適切な対応と解消に努める。 ・問題行動等対策委員会、生活指導連絡会を、年 8 回以上行い記録として残す。 ・学校安心ルールを周知し、事案に応じた組織的対応に努める。 	B
<p>取組内容② 【施策 1 安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>学校や家庭、児童の健全育成に関わる関係諸機関（警察・子ども相談センター・区子育て支援室など）との行動連携に努める。</p> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の研修を含め、警察による防犯教室等、防犯に関する取り組みを年 2 回開催する。 ・非行防止や薬物乱用防止に関する指導を、高学年対象に年 1 回実施する。 ・スクリーニングシート等を活用し、必要に応じて校内ケース会議や関係諸機関と連携したケース会議を行い記録として残す。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

- 学校で認知したいじめについて解消した割合は100%で、目標を達成することができた。
- 暴力行為を複数回行った加害児童は、報告されていないが、トラブルになった時に暴力行為を行う児童は若干数いるため、指導を行っている。
- 新たに不登校になる児童の割合は0.6%で、前年度より減少させることはできなかった。関係諸機関との連携や保護者と連絡を取り、粘り強い対応を続けることにより、登校に向けた取り組みを進めている。

取組内容①

- ・年に3回いじめアンケートを実施し、全体指導や個別指導を必要に応じて行い、いじめの適切な対応と解消に努めた。
- ・企画会後に問題行動等対策委員会としていじめ・不登校対策委員会、職員会議後に生活指導連絡会を行い、情報を共有した。また、問題行動が見られる児童に対しては、ダッシュボードを活用し、多角的に児童の様子を話し合った。
- ・学校安心ルールを年度当初に配布し、全教職員に周知し、事案に応じて組織的に対応した。

取組内容②

- ・警察による不審者対応研修を教職員向けに行い、不審者対応訓練を児童向けに行った。
- ・警察による非行防止教室はオンラインで行った。薬物乱用防止に関する指導は、5・6年生が保健の授業や外部講師による授業により行った。
- ・校内ケース会議を3回行い、今後も1回予定している。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- ・今後もいじめについての情報共有を図り、組織的に対応していく。
- ・学校安心ルールの内容を保護者・児童にもさらに周知していくようとする。

取組内容②

- ・今後も講師招聘が難しい可能性があるため、校内で計画的に非行防止や薬物乱用防止に関する指導等を進めていく必要がある。

(様式 2)

大阪市立菅原小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○校内アンケートにおけるあいさつに関する項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>元気よくあいさつのできる子どもを育てるため、児童会を中心に全学年で「あいさつ運動」に取り組む。保護者・地域の見守り隊と連携し、日常のあいさつができるよう取り組む。また、安全な学校生活を送るためのきまりが守れるように、生活指導部を中心に啓発活動を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期に1回あいさつに関する生活目標を設定し、あいさつ強調週間を実施する。強調週間の前には、各学級であいさつの場面指導を行う。 ホームページや学校だよりで、あいさつ運動を年3回以上紹介する。 学期に1回、「右側を歩こう強調週間」を設定する。 	A
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>社会見学および講師招聘による体験的な学習を行う。また、学年や学級活動での取組によって自尊感情を育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級で学期に1回以上、「よいところ見つけ」などの取組を行う。 社会見学を各学年1回以上、体験学習を各学年1回以上行う。 	B
<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>異学年との交流を深め、自分や他者の価値観を尊重し、相手を思いやる心を醸成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を講じながら、きょうだい学年による集会等異学年交流を実施する。 異学年交流について、児童アンケートにより振り返りを行う。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答えた児童の割合は 76.85%で、指標とする 80%には至らなかった。
- 校内アンケートにおけるあいさつに関する項目について、肯定的に回答した児童の割合は 88.9%で、指標を上回ることができた。
- 校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答した児童の割合は 78.2%で、指標とする 80%には至らなかった。

取組内容①

- ・3 学期のあいさつ強調週間は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったが、気持ちの良いあいさつについて動画を作成し、各学級での指導に活用した。1 学期、2 学期のあいさつ強調週間は運営委員会の児童を中心に実施することができた。
- ・ホームページではあいさつ運動やあいさつ強調週間にに関する記事を 6 件紹介し、家庭への啓発を行った。
- ・学期に 1 回「右側を歩こう強調週間」を設定し、右側歩行の意識を高めることができた。

取組内容②

- ・各学級で「よいところ見つけ」の取り組みを行った。その結果、「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した児童は、1 学期 76.5%, 2 学期 76.4%, 3 学期 78.2% であり、目標である 80%には届かなかったが、肯定的に回答する児童の割合は増えた。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により社会見学は実施できなかつたが、感染状況を見ながら可能な範囲で体験学習を行つた。

取組内容③

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、異学年で集まることができなかつたが、集合せずに交流の場を設けるようにした。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- ・日常的にあいさつの気持ちよさや必要性を感じさせ、自分からあいさつしようとする気持ちを育む。

取組内容②

- ・アンケートを行う前に自尊感情を高められるような取り組みを行う。(自分のよさに気づいていない児童に自分にもいいところがあると思えるような本を学級に置き、担任が読み聞かせるなど)
- ・オンライン見学など状況に合わせた体験的活動の情報収集や実施方法の検討を臨機応変に行う。

取組内容③

- ・次年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられるため、コロナ禍でも実施可能な集会以外の異学年交流の形を考える。

大阪市立菅原小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 学校の年度目標 ○年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を90%以上で維持する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 ホームページや学校だより、保護者会などで学校からの情報発信を常に行うことで、透明性のある学校づくりを行う。 指 標 ・ホームページの更新回数を1000回以上、閲覧数を40000回以上にする。	B
取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 見まもり隊等、地域との交流の活性化により、学校と地域の連携をより深める。防災拠点としての学校の役割を高めるため、防災教育に区役所や地域の防災組織と連携した活動を取り入れる。 指 標 ・感染症の状況を見極めながら、地域とかかわる行事を実施する。 ・区役所や地域防災組織、PTA等と連携した防災訓練を実施する。 ・実施することができた活動について、ホームページで発信する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答えた保護者の割合は97.3%で目標値の90%以上を達成することができた。
取組内容① ・2月22日現在のホームページの更新数は872回、閲覧数は61,376回で、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みのために学校行事等に制限がある中で保護者・地域に開かれた学校づくりを進めることができた。
取組内容② ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みのために様々な制限がある中で、見まもり隊等地域との連携を深めることができた。また、区役所や地域の防災組織と連携して防災拠点としての学校の役割を高めるとともに、土曜授業で全学年防災学習に取り組み、子どもたちの防災意識を高めることができた。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- ・学年によってホームページの更新数に差があるが、次年度も引き続き学年で工夫して取り組んでいく。行事や取り組み以外にも普段の学習の様子をホームページに掲載する等、工夫して進めていく。

取組内容②

- ・次年度も動向を踏まえ、様々な対策・工夫を講じながら可能な行事・取り組みを進めていく。

(様式 2)

大阪市立菅原小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○校内アンケートにおける「進んで読書をしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「国語科の授業内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、83%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>読書環境を整備し、蔵書数や読書スペースの増加により、質と量の向上を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東淀川図書館の団体貸し出しを活用する。 ・水曜日の朝に「読書タイム」を設定する。 ・読書ノートを活用して読書習慣の定着につなげる。 ・学期に 1 回以上、3 分間読書などの読書イベントの機会を設ける。 ・ホームページや学校だよりなどで、読書意欲を向上させる内容を掲載する機会を増やす。 	A
<p>取組内容② 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>学力向上を視点において校内研修や研究を充実させる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員参加型の研究授業・研究協議会を年 3 回、その他、研究授業や校内研修を年 30 回以上行う。 ・若手教員の指導力向上のため、メンター研修を年 6 回以上行う。 ・学力向上推進事業として、国語科で年 20 回程度の校内研修、授業参観等を行う。 	A

取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

基礎基本を重視した個別の学習支援を行う。家庭とも連携し、家庭学習の習慣化と内容の充実（家庭学習プリント、自主学習ノートなど）を図る。

指 標

- ・基礎基本の学習の定着を図るため、週1回「菅原のびっ子タイム」を設定する。
- ・授業内における「学びサポーター」の効果的な活用を図る。
- ・年2回家庭学習状況チェックを行う。
- ・学期に1回以上、良い自主学習ノートを紹介し、意欲を高める。
- ・家庭学習・自主学習の手引を作成し、児童および家庭への啓発を図る。

B

取組内容④【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

子どもの興味・関心を高めるため、授業用パソコンなどを使用するなど積極的なICT機器の活用を行う。

指 標

- ・一人一台端末、タブレットを活用した授業を各学級年間24回以上行う。
- ・一人一台端末、タブレットなどのICT機器の効果的な活用について、1回以上研修を行う。
- ・プログラミング学習など、情報教育の年間計画を策定する。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

全市共通目標（小・中学校）

○「小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる」の目標に対し、3・4・6年生が達成できなかった。

○「小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる」の目標に対し、3・4・6年生が達成できなかった。

○「小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる」の目標に対し、3・4・5年生が達成できなかった。

○小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度の61.6%より増加させる目標に対し、結果は59.3%で達成できなかった。

学校の年度目標

○校内アンケートにおける「進んで読書をしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、前年度の59%より増加させる目標に対し、結果は69.3%で達成することができた。

○小学校学力経年調査における「国語科の授業内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が目標値83%以上に対し、結果は76.5%で達成できなかった。

取組内容①

- ・全学年計画通り、東淀川図書館の団体貸し出しを活用した。
- ・水曜日の朝の時間に読書タイムを設定し、読書習慣の定着につなげた。
- ・学年によるが読書ノートを積極的に活用した。読書ノートを活用したり読書時間を多くとったりすることで、進んで読書する児童が増え、読書習慣の定着につながった。
また、「菅原読書チャレンジ」を企画し、読書ノートの目標達成者には、校長より賞状を渡す取組みをして、読書活動推進に取組んだ。
- ・1学期3学期に三分間読書を実施し、二学期にはブックトーク（5・6年）や読書月間を企画した。読書月間では、新たな読書イベントとして読書bingoや読み聞かせ動画の作成等を行った。また、図書委員会がしおりを作成したり、呼びかけをしたりすることで、児童の読書意欲を高めた。
- ・今年度より、「図書館だより」を発刊した。「図書館だより」では、読書ノートやおすすめ図書の紹介をし、児童だけではなく家庭にも読書の取組みを伝えた。

取組内容②

- ・全員参加型の研究授業（大）・研究協議会3回実施済。
研究授業34回実施済。校内研修15回実施済み（1月31日現在）
- ・メンター研修6回実施済。（1月31日現在）
- ・国語科研究授業27回実施済。（1月31日現在）

取組内容③

- ・学校行事がある時を除いて、「菅原のびっこタイム」を実施している。
- ・低学年を中心に活用している。声掛けが必要な児童などに、支援を行っている。
- ・家庭学習状況チェックを実施した。
- ・1学期2学期に良い自主学習のノートの紹介をした。また、自主学習の本を紹介し、自主

学習の意欲を高める取組みをした。また、今年度より、児童のノートをカラーにし掲載することで、児童の興味関心を高めた。

- ・全学年手引き配布済。

取組内容④

- ・各学年・各教科で一人一台端末を活用した授業を実施している。また、3年生以上は、オンライン授業を展開し、児童の学力保障に努めた。デジタルドリルの導入やネット環境整備等により、ICTを有効的に活用する機会が増えている。
- ・ICT研修を6回実施している。
- ・情報教育の年間計画を策定し、見直しを実施している。ビスケット・スクラッチなどのプログラミング学習も発達段階に応じて実施している。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- ・団体図書貸し出しを実施し、読書環境を整える。
- ・学年により、読書に取り組みに差があった。読書タイムだけでは、読書の定着が難しいため、隙間時間や家庭でも読書をするように学校全体で呼びかけていく。
- ・読書ノートを意識的に書くように、各学級で指導していく。
- ・継続的に読書イベントを実施していくとともに、児童が新しい本に触れる機会を増やすイベントを企画していく。
- ・引き続き「図書館だより」で、本や読書の魅力を伝えていく。

取組内容②

- ・目標値に対して、計画通り実施していく。
- ・目標値に対して、計画通り実施していく。
- ・今年度の国語科研究の総括を次年度に活かし、学力の向上に努める。

取組内容③

- ・「菅原のびっこタイム」で使用する学習プリントの学習効果を振り返り、苦手な分野に効果的な学習プリントを用意する。またナビマの活用も考えていく。
- ・引き続き「学びサポーター」を効果的に活用していく。
- ・自主学習の取組みを推進していくと共に、学習課題を提出できない児童にも対応を考えていく。
- ・次年度も良い自主学習ノートを紹介し、児童の意欲を高めていきたい。
- ・家庭学習の習慣化できていない児童に、家庭と連携しあたらきかけていく。

取組内容④

- ・新しいシステムや機能を必要に応じて学級で活用していく。
- ・新しいシステムや機能の効果的な活用について、各係や教科領域で必要に応じて研修を計画していく。
- ・プログラミング学習など、情報教育の年間計画を実行していく。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題であったシャトルランと長座体前屈の平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 80%以上で維持する。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>スポーツタイムを活用し、体力の向上を図るとともに運動好きな子どもを育てる。</p> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の流行に留意しながら各学期 1 回以上、学年の実態に応じスポーツタイムを実施する。 ・各クラスで週 2 回以上「みんな遊び」を実施する。 ・感染症の流行に留意しながらなわとび週間やかけ足週間を実施し、記録カードにがんばりを記入する。 	B
<p>取組内容② 【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>体ほぐしの運動と体幹を鍛える運動を取り入れた、学校オリジナルの「すがはら体操」を全学年で行うことで、児童の柔軟性を高める。</p> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科の準備運動で、体ほぐしの運動と体幹を鍛える運動を必ず行う。 ・全児童が年に 2 回長座体前屈とシャトルランを計測し、効果を測定する。 	B
<p>取組内容③ 【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>強調週間や清潔調べの実施により、児童の健康に関する意識を向上させる。</p> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康委員会で学期に 1 回、「手洗い・うがい」の強調週間を実施し、チェックカードにより振り返りを行う。 ・ハンカチやティッシュ等の携帯を意識づけるため、週 1 回清潔調べをする。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査においてシャトルランは男子が 7 ポイント、女子が 3 ポイント向上し、長座体前屈は男子が 3 ポイント、女子が 3 ポイント向上した。長座体前屈、シャトルランの記録で男女ともに、目標の前年度比 2 ポイント向上を達成することができた。
- 「手洗いうがいをしっかりとし、健康に気を付けている」の項目について、92.9%の児童が「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答し、目標の 80%以上を維持することができた。

取組内容①

- ・感染症の影響により、スポーツタイムを学年で各学期に一回以上実施することはできなかつた。
- ・各クラスでの「みんな遊び」を、週二回以上、実施することができた。
- ・二学期になわとび週間を実施することができたが、三学期のかけ足週間は感染症の流行を受けて学年で実施することはできなかつた。かけあしの運動は、記録カードを配布して、各クラスで取り組んだ。

取組内容②

- ・準備体操や整理体操、体ほぐしの運動を実施し、児童の柔軟性が高まるように取り組みできた。結果、全体平均において長座体前屈、シャトルランとともに一回目よりも記録を伸ばすことができた。
- ・予定通り年に二回、長座体前屈とシャトルランを実施することができた。

取組内容③

- ・休み時間おわりに「手洗いタイム」を実施したほか、「手洗い・うがい強調週間」を各学期に実施し、チェックカードで振り返りを行った。その結果、児童アンケートの手洗いうがいの項目において「よくできている（だいたいできている）」と回答している児童は 92.9%となり、目標の 80%以上を維持することができた。
- ・週一回の清潔調べを計画的に実施することができた。また、その結果を各教室に掲示し、児童の意識の向上に努めた。

次年度に向けての改善点

取組内容①

- ・来年度も各学年の実態にあわせてスポーツタイムの内容を工夫し、児童が進んで運動に参加できるように取り組みを続けるが、感染症の流行を考えて、実施時期をずらしたり、活動を学年単位から学級単位にするなどの工夫をする。

取組内容②

- ・「すがはら体操」の運動内容を、低学年も取り組みやすいように改善するとともに、教員への体ほぐし運動や体幹を鍛える運動の研修を続けていく。

取組内容③

- ・ハンカチやティッシュを持って来ない児童が固定化しているので、児童への指導や声かけを続けるとともに、ほけんだより、学年だよりなどで家庭への啓発に努める。
- ・今後も、手洗いうがいに対する声掛けを、教職員全体でおこなっていく。

(様式例6)

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 令和3年度の調査結果の概要

区分	結果
①暴力行為の発生件数(件)	
②いじめの認知件数(件)	
②いじめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	
③小・中学校における不登校児童生徒数(人)	
④高等学校における長期欠席生徒数(人)	—
⑤高等学校における中途退学者数(人)	—

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	深刻な暴力行為を行う加害児童は報告されていない。暴力行為はどのような場合でも許されないということを今後も継続して指導していく。
②いじめの状況等	学校で認知したいじめについて解消した割合は100%であった。いじめアンケート実施後の全体指導や個別指導を通じて、適切な対応と解消に努めることができた。今後もいじめについての情報共有を図り、組織的に対応していく。
③小・中学校における不登校の状況等	新たに不登校になった児童は4人であり、割合は前年度より増加している。今後も、関係諸機関との連携や、保護者と連絡を密に取り、粘り強い対応を続けることで、登校に向けた取り組みを進めていく。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目について、それぞれ記入すること